



5月1日現在の天王町
本籍数 3,958
本籍人口 13,959
世帯数 2,690
住民登録人 口 12,894
内 男 6,431
内 女 6,463

広報てんのう

第15号 昭和40年6月24日発行

発行所
秋田県天王町役場
(天王局 1番42番)

編集
天王町役場総務課

印刷
一日市印刷所
電話 38番

就任に当つて

天王町長 藤原慶三郎

この度の選挙に際し若輩の私に寄せられました絶大なるご支援に対し、心から厚く御礼申し上げます。

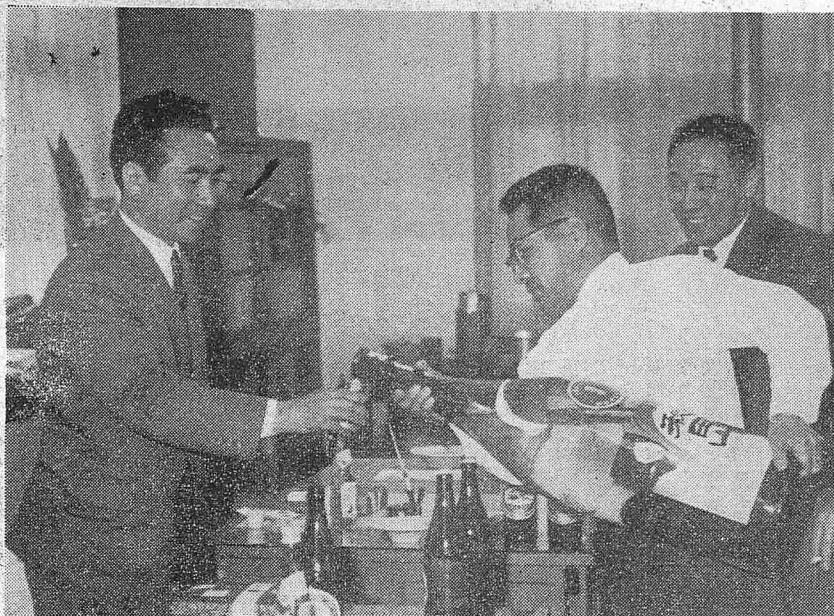
私は常に考えておりることは祖先から受けつけ、子孫に引渡す「郷土天王町」の行政には、完成ということはあり得なく、常に一つ一つの積み重ねの中に真実の姿があり、それが長い歴史の一こま一こまの姿であると思うのです。それ故にこそ、総ての施策は将来天王町の「歴史的発展」につながるものでなければならないと考えます。

このような見地から私は公平平等をモットーとし、「正直者が馬鹿を見ない」ようなガラス張りの町政を施行し、町民のサービスを常に念頭におき、四月二十九日の感激を終生忘ることなく、誠心誠意町政発展のため頑張ることを重ねてお約束いたします。

今後は財政問題、機構問題、その他あらゆる面において現状を正確に分析し、広く町民の意見を求め、議会と協議の上長期振興計画を打立て、天王町将来の計を誤ることなきよう慎重に着手するつもりです。

未熟な私ではありますが、前任者二田さんの偉業をうけつぎ「躍進天王町」の先頭に立ち、皆様と更に膝を交え、語らい、御期待に応えべく懸命の努力をいたす覚悟です。

町政刷新の大事業は「言うは易く、行うは難し」私一人の力では到底成し遂げられるものではなく、町民の御協力御指導なくしては不可能であること銘記下され、より以上の御助言御協力を切望いたし、就任の挨拶といたします。



役場での歓迎会スナップ

私は選挙を通して皆様に訴えて参りました公約に基き「明るい天王町」建設の為、勇気をもつて町政に立向う覚悟です。

水の事故から子供を守ろう

今年もまた、水のシーズンがや
つてきました。毎年のよう、い
やもう既に五月中旬まで、幼児、
学童の水の犠牲者が十八人にのぼ
っています。

昨年一年間の水の犠牲者は百十人、この死者の六七%が小学校以下の子供であり、全くいたましいというほかありません。

- 関心と対策を……。
水死事故をなくするために、
子どもが遊びにいく場所を知つ
ておく。
- 農繁期などに体の不自由な老人
こどもに幼児をまかせず、保育
所にあづける。
- 野井戸などにはフタを。防火用
水にはさくを。
- 水遊びに適しない場所には立札
をたてる。
- 地域ぐるみで協力し合い、悲し
い事故を防ぎましよう。

学校教育がいろいろの角度から再検討を加えられている。最近いろいろな問題が出て来ていますが本町の場合、今一番急速に手を加えなければならないことに、家庭学習を強化しなければならない問題があります。機会ある度に都市部と本町の学力の差が大きいことが問題にされています。この原因は学校の施設、設備の面、教師の資質、社会環境、その他いろいろの事柄があると思うが、なんといつても児童生徒自体の学習意欲と、家庭における学習時間に問題があるようです。学習意欲と家庭学習も父兄の認識で大きく向上さすことが出来ます。先頃本町の全生徒を調査したところ、小学校での学習時間は30分程度しか勉強しない者が60パーセントを越え、逆にテレビの視聴時間が1.5時間から2時間と答えた者が50パーセントぐらいおります。また、中学校の方は昨年の調査より家庭での学習時間は多少多くなつて来ていますが、1時間から2時間勉強する生徒は40パーセント弱です。その反面テレビを2時間以上みている者は35パーセントと、この二つの問題をとり上げてみても、家庭で改善、指導していただかなければならない点がよく理解していただけると思います。

起居を共にしている子どもは、自分の子どもであり、自家の子どもでありますから、子どもをもつと大切に、しかも親切に育ててほしいと思います。子どもの将来にかける夢が大きければ大きい程。

天琴 飯天 二札 大五 江長
浜 峴 里 畠
王村 島王 田市 崎合 川県



西谷村 三沼浦田 伊藤美 ミヨ三夫 澄長子 横井正義
吉田サツ子 田中正栄 信隆代子 船木正栄

秋田市 塩口村野シナ(75才)
大崎吉田サノ(72才)
羽立鈴木金藏(77才)
四月中に出生届のあつたもの
男十名、女三名、計十三名

○広報の発行について

種々の事情で六月号の発行が遅れまして、本当に申しわけありませんでした。

深くお詫び申し上げます。

七月号は七月五日前後に発行いたし、八月号からは従来どおり一日発行といいたします。

◎「町民の声」を聞きます。

広報をいつも皆様に親しみ易い内容にし、又町行政をよりよく理解していただくために「文芸欄（詩歌のみ）と、「町民の声」欄を設け、質疑については紙面回答いたしたいと思いますので、毎月十五日迄御投稿下さい。（役場広報係へ）。しかし紙面等の都合で登載できかねる場合もあるかと思思いますので御了承下さい。

尚採用者には薄謝を呈します。

◎広報編集委員は、次のとおりですから、広報についてのご意見や投稿等についてのご相談がありますから、お頼いします。

伊藤清之助（役場総務係長）
安田鉄雄（役場戸籍係長）
石黒兼造（教委社教主事）
伊藤金政（公民館主事）
畠山照雄（役場庶務統計係長）

公民館正副館長
決まる

秋田市 塩口 村野 シナ (75才)
大崎 桜庭 喜市 (57才)
羽立 吉田 サノ (72才)
鈴木 金藏 (77才)
四月中に出生届のあつたもの
男 十名、女 三名、計十三名